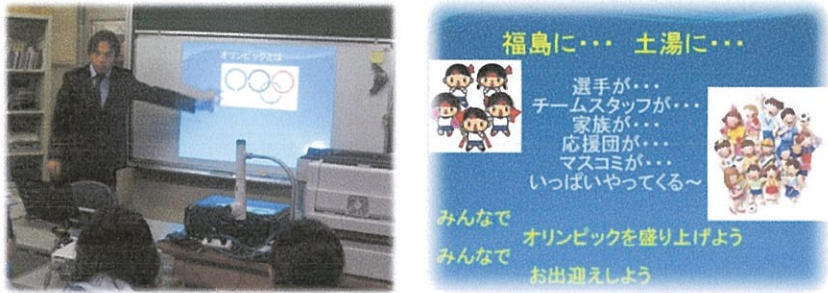


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

1 実践テーマ	【 II・V 】
2 実施対象者	福島市立土湯小学校 1年（1名） 3年（1名） 5年（4名） 6年（2名） 計8名 ※「おもてなし講座」 地区民20名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（生活・総合・体育・学活・図工） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	地域の特色を生かし、来県・来日される方々をどのようにお迎えすればよいのかを考えることで、多様な文化を受け入れ、互いに理解し合える社会実現を学ぶ機会とする。また、スポーツの楽しさや生涯を通して運動することの大切さを感じ取ったり、目標に向けての自己実現への取組を意識したりできるような心の育成を図る。
5 取組内容	◇ 活動I「オリンピックを学ぼう」  <p>福島に・・・ 土湯に・・・</p> <p>選手が・・・ チームスタッフが・・・ 家族が・・・ 応援団が・・・ マスコミが・・・ いっぱいやってくる～</p> <p>みんなで オリンピックを盛り上げよう</p> <p>みんなで お出迎えしよう</p> <p>オリンピック・パラリンピック教育を進めていくにあたり、児童がオリンピックに対しての興味関心をもてるように活動を行った。オリンピックの歴史やオリンピックにこめられた願いなどクイズ形式にしながらかる活動を行った。また、オリンピックが地元福島で開催されることや多くの方々が来ることに触れながら児童たちの感想を引き出すとともに、自分たちがこれからどのような取組をしていかなければならないかを考えることができる機会とした。一人ひとりが真剣に考える機会となり、これからの学習の見通しをもつことができた。</p>

◇ 活動Ⅱ「おもてなしの心」



筑波大学客員教授の江上いずみ先生にお越しいただき「おもてなしの心」について講演を行っていただいた。この講演は、児童だけでなく、地域の方々にも聴講いただいた。「人を迎えるときに大切なことは何か」を具体的に、実践を交えながらご指導いただいた。児童は、この講演が行われた次の日から、実践に取り組み日々の生活に生かしている。

◇ 活動Ⅲ「ふくしまとスポーツを楽しむ心～夢へ向って～」



東邦銀行陸上部100mH紫村仁美選手にお越しいただいた。目標をもつことの大切さや、人とのかかわり、福島・日本のよさ、世界のおもてなしなどについて講話をしていただいた。福島で活躍されているトップアスリートに直接お話をいただくことで児童は目を輝かせて聞いていた。その後の持久走の練習では目標をもって一段と力を入れて練習に取り組んだ。また、陸上の実技指導もしていただき、スタートダッシュの仕方や走るフォームなどを教えていただいた。その後の体育の授業でも学んだことを生かして取り組んでいる。

◇ 活動Ⅳ「お出迎えをしよう」



オリンピック開催に向けて地域柄、たくさんの方々にお越しいた

だくことになる。少なからず児童がかかわることもこれから多くなることが考えられる。そこで、お出迎えの際に活用できるウェルカムボードづくりを行った。土湯地区の伝統こけしをモチーフにしなが児童は、自分が考えたこけしを描き、オリンピックや土湯に関連した模様などを取り入れ作成にあたった。

◇ 活動Ⅴ「マスコット選出」



マスコット選出について話し合った。オリンピック開催に向けて候補があがったマスコットについてそれぞれに込められた意味を理解し、その中で自分が選ぶマスコットについて自分で考えをまとめ、それをもとに学級で話し合った。児童が主体的にオリンピックにかかわることができた。

6 主な成果

オリンピック・パラリンピック教育推進事業校として取り組ませていただいたことで、児童及び職員のオリンピックに対する意識向上が図られた。また、福島地区が会場として選出されたことにも関心が高まっている。これから開催されるオリンピックに対しての興味関心が高まったといえる。

おもてなしについての学習を進めたことで、日常生活の礼儀作法等に変化が見られた。コミュニケーションが大切であることを意識しながら生活できている。また、地域の方々と一緒に活動を進めることで、自分たちだけの活動ではないことが意識された。

陸上選手を招いての講話・実技指導は、オリンピックを目指す選手から目標の立て方や目標に向かって取り組む姿などを直接聞くことができ、児童のこれからの生活に十分生かすことができるものとなった。また、実技指導を行っていただいたことで運動に対する楽しさを実感できたようである。

5つの活動を通して、オリンピックをより身近に感じる事ができたとともに、自分たちの学校生活にも改善を図りながら生活を送ることができる機会となった。

7実践において工夫した点
(事業の
特色)

- 小規模学校の特色を生かし全校生で活動に取り組んできた。
- 地域の特色を生かし、人を迎える立場としての学習を進めてきた。
- 自分たちが住んでいる福島で活躍している方をお招きした。
- 自分たちだけではなく、地域への発信を行い参加していただくことができた。

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピック・パラリンピック教育を進めるための教育課程への位置付けや指導計画の作成 • 計画的な予算執行 • 外部講師招聘についてのコーディネート及び連携 • オリンピック・パラリンピック教育を進めるための校内組織の在り方 • オリンピック・パラリンピック教育と教科との関連の図り方
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 地域との連携を生かしながらオリンピック・パラリンピック教育を進める。 • 各教科及び特別活動等との関連を図りながら進める。 • 児童にとってオリンピックに対しての思いがより高められるような活動の実施を行う。 • パラリンピックについても取り上げる。